

有価証券 第3問 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、問題文で指示されている勘定科目以外は、許容勘定科目表から最も適当と思われるものを選ぶこと。

1. 神奈川商事(株)は横浜商事(株)の株式 8,000 株を @ ¥1,000 で取得し、代金は小切手を振り出して支払った。
なお、横浜商事(株)が発行する株式の総数は 10,000 株である。
2. 神奈川商事(株)の決算において、1. で取得した横浜商事(株)の株式の時価は @ ¥900 であった。
3. 千葉商事(株)は柏商事(株)の株式 3,000 株を @ ¥700 で所得し、代金は買入手数料等 ¥30,000 とともに小切手を振り出して支払った。なお、柏商事(株)の発行済株式総数は 10,000 株である。
4. 千葉商事(株)の決算において、3. で取得した柏商事(株)の株式の時価は @ ¥720 であった。
5. 浦和商事(株)は、得意先である大宮商事(株)との取引を開始するにあたり、同社との長期にわたる取引関係を維持するために、同社の株式 2,000 株を 1 株あたり ¥1,800 で購入し、代金は小切手を振り出して支払った。
6. 浦和商事(株)の決算において、5. で取得した大宮商事(株)の株式の時価は ¥1,850 であった。全部純資産直入法により仕訳を行うものとする。
7. 浦和商事(株)は 6. の翌期首において、再振替仕訳を行った。
8. 足立商事(株)は、得意先である荒川商事(株)との取引を開始するにあたり、同社との長期にわたる取引関係を維持するために、同社の株式 1,000 株を 1 株あたり ¥2,300 で購入し、代金は買入手数料等 ¥50,000 とともに小切手を振り出して支払った。
9. 足立商事(株)の決算において、8. で取得した荒川商事(株)の株式の時価は ¥2,320 であった。全部純資産直入法により仕訳を行うものとする。
10. 足立商事(株)は 9. の翌期首において、再振替仕訳を行った。

有価証券 第3問 模範解答

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	子 会 社 株 式	8,000,000	当 座 預 金	8,000,000
2	仕 訳 な し			
3	関 連 会 社 株 式	2,130,000	当 座 預 金	2,130,000
4	仕 訳 な し			
5	そ の 他 有 価 証 券	3,600,000	当 座 預 金	3,600,000
6	そ の 他 有 価 証 券	100,000	その他有価証券評価差額金	100,000
7	その他有価証券評価差額金	100,000	そ の 他 有 価 証 券	100,000
8	そ の 他 有 価 証 券	2,350,000	当 座 預 金	2,350,000
9	その他有価証券評価差額金	30,000	そ の 他 有 価 証 券	30,000
10	そ の 他 有 価 証 券	30,000	その他有価証券評価差額金	30,000

【解説】

1. 取得原価 ; $8,000 \text{ 株} \times \text{¥}1,000 = \text{¥}8,000,000$ 、全体の 80% (8,000 株/10,000 株) $\Rightarrow$ 子会社株式
3. 取得原価 ; $3,000 \text{ 株} \times \text{¥}700 + \text{¥}30,000 = \text{¥}2,130,000$ 、全体の 30% (3,000 株/10,000 株) $\Rightarrow$ 関連会社株式
5. 取得原価 ; $2,000 \text{ 株} \times \text{¥}1,800 = \text{¥}3,600,000$
6. 取得原価 $\text{¥}3,600,000 <$ 期末時価 $2,000 \text{ 株} \times \text{¥}1,850 = \text{¥}3,700,000 \Rightarrow \text{¥}100,000$ 評価益
8. 取得原価 ; $1,000 \text{ 株} \times \text{¥}2,300 + \text{¥}50,000 = \text{¥}2,350,000$
9. 取得原価 $\text{¥}2,350,000 <$ 期末時価 $1,000 \text{ 株} \times \text{¥}2,320 = \text{¥}2,320,000 \Rightarrow \text{¥}30,000$ 評価損